

ATI認定 樹護士アーボリスト®第1次審査 エバリュエーター 評価採点票

受験者氏名	NAME (ローマ字記載 姓名)	性別	血液型
電話番号	住所		
携帯電話 緊急連絡先	続柄 ()		
エバリュエーター1 氏名	エバリュエーター2 氏名	日時: DATE / /	
試験会場	住所		

エバリュエーター&受験者 事前確認 重要事項 (この評価採点票は公開されています)

- ・「樹護士アーボリスト」審査試験は、アーボリストの名を冠するにふさわしい専門職人としての基本的スキルを評価認定するものです。高木管理の現場作業において使用するギア類の適切な取捨選択、フィールド計画と設計、チーム作業の連携と安全、適切なクライミングおよびワークポジショニング、そしてリギング技術の基本スキルについて評価を行い認定します。
- ・この認定のための評価は、得点数だけで合否を決める通常の実技試験とはやや異なり、アーボリストの現場実践に必要な基本的スキルの理解度や修得度を各セクションの試技の総合評価として認定するものです。エバリュエーターは受験者に対する質問などを伴って評価を行っていきます。認定評価される内容と課題は事前に細かく提示されています。
- ・受験者はエバリュエーターからの質問や指示ある時は、自らの試技について追加説明したり実技の修正ができなくてはなりません。
- ・エバリュエーターは受験者が、事前にこの審査試験の「目的」と「内容」を十分に理解していることを確認します。実際の現場作業を想定した各セクションでは、アーボリストとしてふさわしい適切な現場仕事の遂行を想定した課題が与えられます。
- ・チャンピオンシップ競技時の採点基準とは異なります。また「マスターアーボリスト」など熟練技術を身につけたレベル認定ではなく、基本に則ったベストプラクティスの遂行を評価認定します。
- ・受験者に不明な点がないよう、セクション開始事前に質問を受け付けます。
- ・受験者は必要に応じてエバリュエーターにグラウンドワーカー役として作業の補佐を指示することができます。ただし、指示できる内容は各セクションで認められたことのみとします。
- ・エバリュエーターは、受験者の試技や説明が不十分である場合には、再質問などを行い、それでも改善がされない場合には、該当の項目について「警告」を与え、または各評価項目の可否を評価します。
- ・ギア他、物を落下させた場合は警告となります。ただし、インジャリーフリーの物はその限りではありません。
- (インジャリーフリーとはケガの可能性が極めて低いもので、スローライン・手袋・ハンカチ・セーフティーグラスなど。ペンはインジャリーフリーではない。)
- ・重要なコールがない場合は3回につき警告1回となります。ただし、「セクション2 スローライン セッティング」においてはコール1回ごとに警告1回です。
- 重要なコールとは、スロー・ヘディック・オンロープ・パークチェック・バウンズチェック・クライミングアップ・クライミングダウン・オープンロープ・スタンドクリアー・オールクリアーです。
- ・各セクションおよび全体での合格には、70%以上の“Complete”または“Pass”が必要です。ただし、セクション1、ギアインスペクションについては、PPEの準備がない場合は、「失格」となります。
- ・致命的なミスまたは試技が未達成な場合は「失格」となります。また各セクションごとの「警告」3回で「失格」となります。各セクションごとに「合格」または「失格」の認定評価を行います。改善が必要な項目と内容をエバリュエーターから伝えられます。
- ・「合格」のセクションについては、1年以内の受験に限り免除されます。ただし、「セクション1 ギア インスペクション」と2次試験のセクションごとの免除はありません。
- ・全てのセクションで評価認定に合格した者は、認定「樹護士アーボリスト」の称号を冠して業務遂行にあたることが認められます。

1. ギア インスペクション

このセクションでは、現場作業におけるワークプランに基づき、使用する適切なギア類の取捨選択と準備、点検や整備のスキルについての評価認定を行います。各項目の実技所要制限時間については都度指示します。

制限時間 15分

【受験者が用意するもの】

1次、2次の両試験の全セクションの試技に使用するすべてのギアおよびPPE。
普段使用しているギア点検表などを持ち込むことができます。

※下記記載ギアは持ち物リストではありません。1次、2次の両審査試験の内容を確認し、すべての試技が行えるよう必要なギアを準備してください。

※記載されているギアとその数量がすべてパスしない場合は次へ進めません。

※クライミングに関する項目1.~10.は、ギアの点検と説明がパスしない場合は次へ進めません。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	ギアの内容確認	ギアの点検と説明
1.ギアの準備 エバリュエーターは受験者に対し、ギアについて次の指示を行います。 「必要なギア(右記)をすべて持参していますか？1次、2次の両試験で使用するギアをすべて展示してください。その際、ライフサポートのものは明確に分けて置いてください。すべてのギア類は、ISAまたはATIが標準として要求する性能および安全基準をクリアしていなければなりません。」 【その他】 右記項目は持ち物リストではありません。評価するギアの評価項目です。1次、2次の両審査試験に「この項目以外のもの」や「この項目に記載の数量を超えるもの」で必要とするものがあれば、持参して使用を申請してください。 ・項目12以降のリギングギアについては「ISA公認 アーボリスト基本テキストTree Climbers' Guide 3rd EDITION」(日本語版) P120、または「ISA公認テキスト アーボリスト必携リギングの科学と実践(日本語版) P78を一例として参考にしてください。なお、受験生の試技は必ずしもテキスト同様の設定である必要はありません。 ・受験者はクライミングシステムの「オープン(ブレイクスヒッチ)」と「クローズド(ディステル、シュワビッシュ、ヴァルドティントレス(VT))」両MRS(DRT)クライミングヒッチを完成するギアを持参してください。 補足説明 ※「7. ライフサポート オートロックカラビナ 3個」：オープンヒッチ用1個、クローズドヒッチ用2個に使用します。セーフティランヤードセットやエイト環、その他で使用するものとは別に用意してください。 ※「8. セーフティランヤードセット1式」：ランヤード、カラビナ、プーリー、フリクションコードなどを必要に応じセットしてください。7項のライフサポートオートロックカラビナとは別で用意してください。 ※「9. クローズドヒッチ用Eye to Eye フリクションコード 1本」：クローズドヒッチに使用できるプーリーも用意してください。ライフサポートオートロックカラビナは7項のものを使用することができます。 ※ライフサポート用のカラビナは3アクション2ロック以上のオートロックカラビナを使用してください。 2.ギアの名称などの説明 エバリュエーターは受験者に対し、ギアについて次の指示を行います。 「使用するギアについて、(“ギアの内容確認”として)名称、用途を、(“ギアの点検と説明”として)使用方法、強度、点検時のポイントを口頭で説明してください。その際、ライフサポートのものとそうでないものの区別については特に明確にしてください。またギアに摩耗や傷または汚れなどがある場合には、それを使用可能と判断する理由を説明してください。もしこの中で誤った説明があっても、ギアインスペクション終了の前に修正追加の説明ができれば評価認定されます。制限時間は15分です。」 【警告について】 ・いずれかのシステムが完成できずクライミングできない状態と判断された場合は、警告回数に関わらず失格となり認定評価は継続できません。 ・ライフサポート用のギア類で明らかな危険性や著しい汚れが認められる場合には、1つのギアに対して警告1回となり、そのギアの使用は認められません。 ・使用が認められずギアが不足した場合や、持参し忘れたものがある場合は、1つに限りエバリュエーターから借りることが認められます。ただし警告1回となります。	1. クライミング用ヘルメット 1個	Pass / Fail	Pass / Fail
	2. セーフティグラスまたはアイプロテクション 1個	P / F	P / F
	3. 樹上作業に適した作業靴 1足	P / F	P / F
	4. MRSツリークライミング用ロープ 120ft 以上 2本 (2つの異なるヒッチシステムが作成できること)	P / F	P / F
	5. フリクションセーバー 2個	P / F	P / F
	6. 樹上作業に適したクライミングサドル 1個	P / F	P / F
	7. ライフサポート オートロックカラビナ 3個	P / F	P / F
	8. セーフティランヤードセット 1式	P / F	P / F
	9. クローズドヒッチ用 (トリプリアタッチメントプーリー、カラビナ Eye to Eye フリクションコード 1本など)	P / F	P / F
	10. エイト環 + ライフサポートオートロックカラビナ 1式	P / F	P / F
	11. ハンドソー(鞆入り) 1本	P / F	P / F
	12. リギング用スチールカラビナ 1個	P / F	P / F
	13. リギングスリング 2本 (デッドアイスリング、またはウーピー、ルーピースリング) (内1本はデッドアイスリングであること)	P / F	P / F
	14. リギングブロック 1/2 inchロープ適応 1個	P / F	P / F

	15. ローリングデバイス 1個 (リガー、ポータラップ、RC等)	P / F	P / F
	16. リギング用ロープ 1/2 inch 120ft 以上 1本	P / F	P / F
	18. タグライン 1本	P / F	P / F
	20.スローラインセット 必要数 (スローライン、キューブ、スローバッグ、カラビナなど)	P / F	P / F
	21. その他クライミングに必要な任意のギア類（予備を含めて申請する事が出来る）スプリットテールなど	P / F	P / F
		セクション合否結果	
	セクション 1 このセクションの結果	失 格	合 格

2. スローライン セッティング

このセクションでは、ハンドスローラインテクニックを使ったスローラインセッティングの適確性を評価認定します。

【受験者が用意するもの】

- ・スローライン3本以内、スローバッグ6個以内およびPPE。

【エバリュエーターが事前に準備するもの】

- ・樹木の準備 スローラインのアンカーポイントを2か所用意する。
 - ①アンカーポイント1 高さ約12m（5投＋3回までの掛け替えテクニック）
 - ②アンカーポイント2 高さ約8m（3投＋2回までの掛け替えテクニック）
 ※受験者が最初①or②を選び途中変更はできない
- ・試技スタート位置を設定する。
- ・指定するアンカーポイントのマーク、またはレーザーポインターなどによる事前説明。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターはスローラインセッティングについて以下の説明と指示を行います。			
「これからスローラインでのセッティングテクニックの評価認定を行います。スローラインは3本まで、スローバッグは6個まで使用できます。受験者は12mまたは8mのマークされたポイント（事前にマークまたはレーザーポインター等で指定をします）のどちらかを選択して申告してください。開始後の変更はできません。12mのポイントは5回のスローと3回の掛け替えテクニックを、8mのポイントは3回のスローと2回の掛け替えテクニックが認められます。MRSクライミング用として途中に枝を内包しないようにアンカーポイント直下にスローラインをセットしてください。セットができたらスローラインの両側を地面につけた状態でエバリュエーターに申告してください。エバリュエーターの確認を受け、スローラインを地上に降ろしてください。開始の合図からここまでを制限時間10分で行ってください。掛け替えテクニックとは、“スローライン末端以外へのスローバッグの取付け”、“投げたスローラインにスローラインの取付け”をすることです。1回取付けするごとに掛け替えテクニック1回とカウントされます。」	・適切なコールが適切なタイミングで行われているか。	Complete ・ Incomplete	
・対象のアンカーポイントは、地上高約8mと約12mで、広くて視認しやすいポイントとします。 ・試技スタート位置は対象樹木付近に設定します。	・安全な試技遂行ができていないか。	Complete ・ Incomplete	
・アンカーポイント以外の枝を内包しない状態でのスローラインセッティングまでの試技を行います。 ・スローラインの同時使用本数に制限はありません。	・適切なトラブルシューティングができるか。 またはトラブル発生していないか。	Complete ・ Incomplete	
【警告について】 ・適切なコールがない時、または適切なタイミングで行われなときは、1回につき警告1回となります。 ・制限時間を超えてスローラインがすべて地上に降りていない場合は警告1回となります。 ・1インチ以上の枝を折った場合は警告1回となります。	・スローラインセッティングまでができたか。	Complete ・ Incomplete	
【失格について】 ・認められたスロー回数と掛け替え回数以内にスローラインセッティングが完了しない場合は失格となります。			
	警告の回数 回	セクション合否結果	
	セクション2 このセクションの結果	失 格	合 格

3. クライミング チェック

このセクションでは、安全なクライミングのためのMRSセッティング、クライミングおよびメインロープの樹上切替えから下降までの試技を認定評価します。
制限時間20分
受験者はあらかじめ設置された2本のスローラインにオープンヒッチシステムとクローズドヒッチシステムをセットし、基本的なMRSクライミングを試技します。
さらにセカンドロープへの樹上切り替え作業を確実に行います。
あわせてリギングで使用するノットチェックを行います。

【受験者が準備するもの】
・認められたギアの中から、MRSクライミングをするためのギアを選択して使用します。

【エバリュエーターが事前に行う準備】
・ファーストアンカー、セカンドアンカーのスローラインをセットします。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
クライミングチェック エバリュエーターは受験者に対しクライミングチェックについて以下の指示と説明を行います。 「開始の合図後、あらかじめ設置されたスローラインにロープとフリクションセーバーをセッティングしてください。プルチェック後、MRSクライミングのためのオープンヒッチシステムとクローズドヒッチシステムをそれぞれ作って下さい。フリクションヒッチとして、ブレイクスヒッチ、ディステル、シュワビッシュ、ヴァルドテイントレス(VT)のいずれかを使用してください。それぞれのシステムで、適切な安全確認の後、どちらかのロープを3m以上安全登攀し、合図の後、あらかじめ指定された切り替え場所まで安全下降してください。その位置でセカンドロープへの切り替えを行ってください。切替中は常時バックアップが確保されているようにしてください。その後、3m以上安全登攀し、合図の後、ロープの長さ確認をしてから、安全下降してください。、これら際、フットアセンドャーやフットループの使用も認められます。適宜必要なコールも行ってください。ロープ回収終了までを制限時間内で行ってください。」 ・フリクションヒッチは都度のドレスアップの必要なく確実に制動するように出来ていることが要件です。 ・プルチェック（アンカーチェック）の際は、エバリュエーターに補佐を指示してください。 ・カラビナとロープの接続は、カラビナが回転しない状態にしてください。 ・クローズドヒッチの際は末端アイ付のロープを使用してください。マイクロプーリーなどを組み合わせることも認められます。 【警告について】 ・一定以上のスリップは警告の対象となります。 ・適切なランヤードタイインが行われていないときは警告とします。すべての作業時にはランヤードで確保してください。 ・ランヤードがたるんでいた、適切なポジショニングが完成していない場合は警告となります。 ・警告は、その都度樹上の受験者に伝えられ内容を説明します。この間、時間計測は止めます。 【失格について】 ・過度に危険なスリップやスイングまたはオフロープ状態は失格となります。 ・時間内にすべての課題が達成できない場合には失格となります。	・ノットチェック ダブルフィッシャーマンズループ	Complete ・ Incomplete	
	・オープンヒッチシステムと基本的なクライミング (ブレイクスヒッチを使用)	Complete ・ Incomplete	
	・クローズドヒッチシステムと基本的なクライミング ※下記のフリクションヒッチから1つを選ぶ。(ディステル、シュワビッシュ、ヴァルドテイントレス(VT))	Complete ・ Incomplete	
	・クライミングシステムを設定しアンカーポイントの安全と、システム全体の安全を確認する。	Complete ・ Incomplete	
	・プルチェックは正しくできているか。	Complete ・ Incomplete	
	・ランヤードでタイインする。	Complete ・ Incomplete	
	・ランヤードでタイインした状態で、セカンドロープへのタイインをしメインロープの切り替えをする。	Complete ・ Incomplete	
	・セカンドアンカーポイントとセカンドロープシステムの安全確認する。	Complete ・ Incomplete	
	・セカンドロープが下降の為に十分な長さであることを確認する。	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数 回	セクション合否結果	
	セクション3 このセクションの結果	失 格	合 格

4. ハンドソー カutting

このセクションでは、受験生が枝のカuttingにおける数種類の基本動作を完遂できることを認定評価します。
制限時間 15 分

【受験者が用意するもの】
鞘に入ったハンドソーおよびPPE。

【エバリュエーターが事前に準備するもの】
約 10 cm 径の節の少ない生木の枝などを約 15 ～ 30 cm の長さで実際に数回切断できるように固定しておきます。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは受験者に対し以下の指示を行います。 1. ドロップカット・スナップカット 「ドロップカットとスナップカットの違いを口頭で述べてください。」 2. スナップカット・ヒンジカット 「ミスマッチカットによるスナップカット、ヒンジカットをそれぞれ試技してください。」 以下の内容と条件で評価します。 ・スナップカットおよびヒンジカットの刃を入れる位置と順番は正確か。 ・安全に行えたか。 ・スナップカットは手でスナップ（折り曲げて）して外すことができたか。 ・ヒンジカットは受け口と追い口が適切でヒンジ(つる)を機能させて切断できたか。 ・各カット毎に2回の試技の機会が与えられます。 ・樹木の節や何らかの考慮すべき不利な事情がある場合には、さらに1回の試技の機会が与えられることがあります。 ・エバリュエーターはカットの長さ(切断箇所)を都度指示します。（1回のカットは約 15 ～ 30 cm 程度） ・地上で試技を行いますが、樹上にいると仮定してコールを忘れないようにしてください。 【警告について】 ・適切なコールがない時、または適切なタイミングで行われないときは、1 回につき警告 1 回となります。	・ドロップカットとスナップカットの違いの口頭説明	Complete ・ Incomplete	
	・ミスマッチカットによるスナップカット	Complete ・ Incomplete	
	・ヒンジカット	Complete ・ Incomplete	
	・ハンドソーの取り扱い方	Complete ・ Incomplete	
	・適切なコールが適切なタイミングで行われているか。	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数 回	セクション合否結果	
	セクション 4 このセクションの結果	失 格	合 格